



8739

## スパークス・グループ



SPARX Group Co., Ltd.



取締役 グループ執行役員 深見正敏氏

## セミナー内容

## スパークス・グループの事業内容と成長戦略について

スパークスは「世界で最も信頼・尊敬されるインベストメント・カンパニー」を目指す、日本初の上場独立系資産運用会社。日本・アジアの株式から発電施設などの実物資産、未公開企業まで投資を多角化し安定性を増した最新の成長戦略について説明がなされた。

## 日本初の独立系上場資産運用会社、世界の投資家も注目

1989年に設立された日本初の独立系上場資産運用会社。国内外の投資家からの預り資金を株式や実物資産に投資して運用。顧客の投資家は年金基金、政府系ファンド、事業法人、ファミリーオフィス、財団等と多岐にわたり、今後は資産運用ニーズが高まる個人投資家の拡大へも注力していく。経営理念は『世界で最も信頼・尊敬されるインベストメント・カンパニーになる』で、国内よりも世界各国における海外顧客を多く持つ。韓国、香港にも海外拠点を展開し、アジアをはじめとする世界的な発展を目指している。

## 徹底したリサーチ主義で優良な投資先を見出す

「マクロはミクロの集積である」という創業以来の一貫した投資哲学で、徹底した現場リサーチを重視。優良な投資先を探すため年間約2,500回以上の企業訪問を実施し、①「企業収益の質」(売上の継続性や参入障壁の高さなど)、②「経営戦略」(過去の中期経営企画の結果に基づく経営陣の考え方など)、③「市場成長性」(マーケットが時代の趨勢に対応しているかなど)の3つの観点から企業を分析。「信頼・尊敬されるインベストメント・カンパニー」となるため、地道な調査で企業の実態価値と株価とのギャップを見極めている。

## 日本株式をメインで安定な営業収益、各機関からも高い評価

運用資産残高は9,229億円(2016年7月末)。投資対象地域別では日本が約80%、韓国が約20%でほぼ全てを占め、今後はその他アジアでの比率増加を目指す。また、アセットクラス別では株式投資等が80%以上を占め、今後はインフラ投資(再生可能エネルギー)や不動産への投資にも注力する。収益構造は、主に預り資産の運用手数料である「残高報酬」と運用成績に対して一定割合を受領する「成功報酬」の二つ。2012年以降、運用資産残高の拡大により「残高報酬」が堅調に推移し、安定的な営業収益を上げている。また、日本の株式運用会社としての実績が評価され「リッパー・ファンド・アワード・ジャパン2016最優秀運用会社(株式部門)」を、GDP上位5ヶ国では史上初となる、3年連続No.1を受賞。その他の機関からも高評価を得ている。

## 成長実現のための4本柱～「日本株式」「ONE ASIA」「実物資産」「未来創生」

今後は以下の4つの投資戦略で成長を目指す。①「日本株式」: 中小型やロング・ショートなどの優良ファンドを個人投資家へもPRするため、広報宣伝活動の積極化やラップ口座、DC(確定拠出年金)向けの営業活動を強化。②「ONE ASIA」: 韓国、香港、東京の3拠点が一体となり、1つの地域としてアジアを企業調査してポートフォリオを構築し、幅広い提供を目指す。③「実物資産」: 再生可能エネルギーと不動産への投資強化。収益の質が高い再生可能エネルギー発電施設の建設を展開し、すでに13案件では売電開始。また、東京・世田谷区烏山に人工股関節手術専門の病院を不動産ファンドにて開発。④「未来創生」: トヨタ自動車、三井住友銀行と共同で、人工知能・ロボティクス・水素エネルギーの3分野に投資しており、2016年7月末の資産運用残高は256億円。12月までに500億円を目指す。